



## Juju Information Vol.69

## Juju(こと、野田樹潤)

## スーパーフォーミュラ 第4ラウンド 富士スピードウェイ

## 猛暑の中の決勝は、19位 フィニッシュ。

Juju 「いろいろと学ばせてもらうことができ、確実に進化の手応えを感じました。」

Juju (こと野田樹潤 NODA レーシング所属) は、7月20日(土)-21日(日)、富士スピードウェイで開催された SUPER FORMULA 第4ラウンドに出場しました。

21日(日)の決勝レースは、前回スポーツランドSUGOでの第3ラウンドとは打って変わり、快晴・猛暑の中でのレースとなりました。路面温度が急上昇、タイヤには大きな負担を掛けるレースを19位でフィニッシュ。レースを終えてJujuは、「いろいろと学ばせてもらうことができたレースでした。確実に進化しているという手応えを感じました。レース内容は悔しい部分もありますが、次のレースに前向きに臨むことができる内容でした。」と、悔しさの中にも、次戦への強い決意を滲ませていました。

20日(土)午前のフリープラクティス1。午後の予選は、これまでのテストデータからセッティングを見直し、さまざまに調整を変えつつ、ドライビング面でも考えながらの走行となりました。フリープラクティスでのベストタイムは、1分25秒716。予選では、1秒近くを短縮する1分24秒940を記録。

目標としていたタイムにはやや届かなかったものの、チームの雰囲気は良好。今回からチーム内体制に変更もあり、担当エンジニアとの仕事も初めてながら非常に良い流れが窺えました。決勝レース当日午前のフリープラクティス2、午後の決勝レースに向けて、「課題を改善してよいレースにしたい」(Juju)と、真剣な表情でひとこと。メディアとのインタビューでは、「開幕戦からこれまでを通して、一番楽しかった予選でした」と手ごたえを語っていました。



2024 SUPER FORMULA Round4 Fuji Speedway  
Credit: juju0.com



21日(日)、スーパーフォーミュラ第4戦富士ラウンド。決勝レース当日は、前日にも増して気温が上昇。午前のフリープラクティス2は、各選手ともタイヤをいたわる走行。午後の決勝レースのスタートは、一日のうちで最も気温が高い時間帯。タイヤには、非常に大きな負担がかかる厳しいレースになりました。



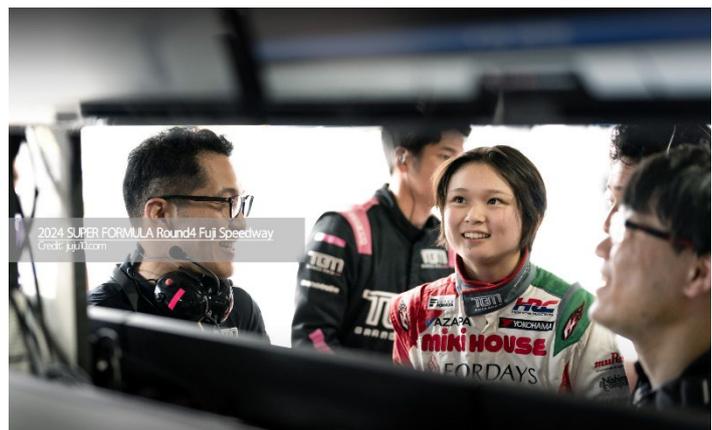
mikiHOUSE FORDAYS Koken 安藤ハザマ 豊田通商 XEBEC JUUU TGT

ローダウンを余儀なくされ、進路を譲るかたちでコースイン。このため、さらに5秒をタイムロスしてしまいました。

この時点で、前を走る坪井選手とは、周回遅れの状態に。これまでは、あっという間に見えなくなってしまっていた先行車両でしたが、今回はしばらく、坪井選手の真後ろを走ります。「タイヤ交換のタイムロスでのスローダウンは悔しかったのですが、そこからトップの坪井選手についていって色々と学ばせて貰えました。」と、この位置での走行も逆にプラスに切り替える Juju でした。レース後半、タイヤの摩耗が進んでからもラップタイムは安定。トップと同一周回の19位でレースを終えました。レース中のベストタイムも優勝車両から1.2秒差となり確実にその差を詰めて成長を見せたレースとなりました。

Juju は、「今回、やれる事はやったと思います。毎戦少しずつですが、確実に進化している手応えがあります。今回のレースは悔しいけど、次のレースに前向きに臨むことができる内容でした。皆さん、ご声援ありがとうございました。」と、最後は、笑顔を見せていました。

次戦は、8月24日(土)-25日(日)、栃木県茂木町「モビリティリゾートもてぎ」での第5ラウンドです。暑い時期のシリーズ中盤。新たなチャレンジが続きます。



mikiHOUSE FORDAYS Koken 安藤ハザマ 豊田通商 XEBEC JUUU TGT

この件に関するお問い合わせ先：NODA RACING 広報担当 石川  
e-mail t.ishikawa@noda-racing-academy.org Mobile 090-8940-1683  
岡山・美作事務局 担当 須田  
Tel.0868-75-3283/Mob.090-5128-3064 mail k.suda@noda-racing-consultans.biz